

Marshall

LEGENDS

Plexi Super Lead 1959

Rev. Oct 05, 2015

Softube ユーザーズマニュアル

© 2007–2015. Amp Room は、Softube AB, Sweden の登録商標です。Softube は、Softube AB, Sweden の登録商標です。Marshall, Super Lead, Plexi, 1959 に関連するロゴ、及びすべての視覚と聴覚のリファレンスは、ライセンスを受けて使用している Marshall Amplification UK の商標です。Valley People Dyna-mite, Trident A-Range, Tonelux、Tilt への視覚と聴覚へのリファレンスは、PMI Audio から書面による許諾を得て使用されている登録商標です。Tonelux、Tilt logo, Valley People, Dyna-mite に関連するロゴ、Trident、A-Range、Triangle のゴロはライセンスに基いて使用されている PMI Audio Group の商標です。Summit Audio Inc. は、Baltic Latvian Universal Electronics, LLC の登録商標です。すべての仕様は予告なく変更することがあります。無断複写、転載を禁じます。

その他の会社名、および本書に記載されている商品名は、各社の商標、及び登録商標です。他社製品に関する記載は、情報提供のみを目的としており、保証、推奨するものではありません。Softube は、これら製品のパフォーマンス、または使用に関して一切の責任を負いません。

Softube 製品は、特許 SE526523、SE525332、関連する特許/特許 WO06054943、US11/667360、US20040258250、EP1492081、EP1815459、JP2004183976 によって保護されています。

ユーザーへのソフトウェアへの権利は付属のソフトウェア使用許諾契約書(EULA)に準拠しています。

謝辞とライセンスについて

‘zlib’ general purpose compression library version 1.2.8 の **zlib.h** インターフェイス、April 28th, 2013。Copyright © 1995–2013 Jean- loup Gailly と Mark Adler。このソフトウェアの一部は、copyright © 2006 **The FreeType Project** (www.freetype.org)です。すべての著作権を保有しています。**WonderGUI** は、Tord Jansson のライセンスに基づき使用されます。© 2004, 2006–2014 Glenn Randers-Pehrson による **Libpng** のバージョン 1.2.6, August 15, 2004 からバージョン 1.6.12, June 12, 2014 までは、同じ免責にとライセンスに従って頒布されています。いくつかのコードは、copyright © 2008 **The NetBSD Foundation, Inc** が所有しています。**VST** は、Steinberg Media Technologies GmbH のソフトウェアであり、商標です。Mac OS X のヘッダーは、**Apple Public Source License (APSL)** の元でカバーされ、<http://www.publicsource.apple.com/apsl/> でご利用可能です。

免責事項

あらゆる努力は、このマニュアルに記載されている情報が正確であることを確認するために行われました。しかし、我々はミスを犯している可能性があります。我々も人間であるということをご理解いただけますと幸いです。ミスを発見した場合、我々にお知らせください。マニュアルの後のバージョンで修正します。

サポート

Softube のウェブサイト上 (www.softube.com)では、よくある質問(FAQ)や、様々な他のトピックへの答えを見るけることができますでしょう。

サポート的な質問は、<http://www.softube.com> にポストしてください。

我々は出来るだけ速やかにお答えします。Web: www.softube.com

E-mail: info@softube.com

Phone: +46 13 21 1623 (9 am – 5 pm CET)

もくじ

1	<i>Marshall レジエンド</i>	5
	Marshall Plexi Super Lead 1959	6
	Marshall Bluesbreaker 1962	6
	Marshall Silver Jubilee 2555	6
2	<i>ユーザーインターフェイス</i>	7
	メニュー	7
	Apollo Unison	8
	メーター	8
	モノ&ステレオ	9
	プリセット	9
	キーコマンド	9
	クレジット	9
3	<i>Marshall Plexi Super Lead 1959</i>	11
	アンプのパラメーター	11
	チャンネルストリップのパラメータ	14
	キャビネット&マイク	14



1 Marshall レジェンド

UAD Marshall Legends バンドルでモデリングしている 3 台のギターアンプを誇張することは不可能です。これらは、Marshall の歴史の中でのマイルストーンを代表するだけでなく、Woodstock での Jimi Hendrix の耳がちぎれるようなギターソロ・パフォーマンス、Eric Clapton のウォームなクランチ・トーン、John Mayall and the Blues Breakers をはじめとするファットでスムーズなディストーション、1980 年代後期の Slash、Red Hot Chili Peppers の John Frusciante など多くのプレイヤーに愛用され、ロックンロールのサウンドを代表します。これらのサウンドやトーンはすべて再現可能ですが、それよりも多くのものが見つかります。これはまた、これらのモデルを開発する上で大きな役割を果たした Tony Platt (AC/DC Iron Maiden Motorhead) によって作成されたプリセットの長いリストによって試すことができます。



Marshall Plexi Super Lead 1959

Jimi Hendrix、Pete Townshend、Angus Young、Eddie Van Halen、Yngwie Malmsteen – Plexi ユーザーのリストは真のロックンロールの歴史と言えます。イギリス紳士の振る舞いに関する固定概念を忘れてください。Plexi は荒っぽく、激しいロックンロール・サウンドとすぐに認識できるサウンドを提供します。

2 ユーザーインターフェイス

Marshall Legends プラグインは、“見たそのまま”の製品です。素早く、効率的に操作できるように直感的に数分以内に使い方を覚えることができます。メニューのような Softube のすべてのプラグインで同じような部分がありますが、それについてはこの章で説明します。プラグインの特定の詳細な情報に関しては、それぞれの章を参照してください。

メニュー

プラグインインターフェイスの下部には、いくつかのボタンと細い黒い列があります。ここでは例として、Bass Amp Room プラグインを使用しますが、他のプラグインでも同様です。

About Box About ボックスを開くと、バージョン情報を表示します。

Value Display マウスがコントロールしているノブの値を表示します。

Enable 有効/プラグインをアクティブにします。off にするとバイパスします。

Setup プラグイン全体の設定を変更する場合にはグローバルオプションを使用します



Enable

Enable スイッチがオンになっている場合 (i)、プラグインはアクティブになり、オーディオ処理がなされます。オフ (0) にするとバイパスされ、オーディオ処理されません。バイパス時の CPU 消費率はかなり少なくなります。

“About”
ボックス

バリュー・ディスプレイ

Enable セットアップ



セットアップ

セットアップウィンドウでは、プラグインの特定のインスタンスに影響を与える設定を行います。例えば、“Show Value Display”オプションの選択を解除した場合、プラグインは再びそのオプションを選択するまでシステム上のすべてのバリューディスプレイはオフになります。

Windows と Mac の間では、異なるオプションに変わっている場合があります。また異なるフォーマットやプラグインでも同様です。一般的なオプションは以下の通りです。:

Show Value Display: プラグインの下の列でパラメーターと値の表示を有効にします。

Reverse Mouse Wheel Direction: (Mac OS のみ)
ノブの動きに合わせてマウスホイールの上下を変更することができます。(Mac OS のみ)

変更を有効にするには、ホストアプリ(DAW)を再起動する必要があります。

もし、マニュアルでこのオプションを設定する必要がある場合は、下記の場所にテキスト形式でそれらを見つけることができます。:

Mac OS: ~/Library/Application Support/
Softube

Windows: username¥Application Data¥

Apollo Unison

これらのプラグインを Apollo で使用する場合、Unison 機能に対応します。

Console アプリケーションの Unison スロット(最初のプラグインスロット)にプラグインをインサートすることによって Unison をアクティブにします。:

- ギターは、正確にオリジナル・アンプにマッチするレベルをインプットすることでプラグインは、オリジナル・アンプと同じように動作します。
- 異なるインプット・チャンネルやパッチを選択しても、ギターのリアルなアンプに接続した時と同じ反応が得られるようインプット・インピーダンスを調節してください。

ソフトウェア・ベースのギターアンプを使用する場合、インプット・レベルとインピーダンスは、もっとも重要な要因の2つで、これを今まではエミュレート、コントロールすることができませんでした。Unison を使用することによって、ギター方 Apollo を介してソフトウェアの全経路がオリジナルのハードウェアの完璧なレプリカであることを保証することができます。

その上、以下も得ることができます。:

- 2 つのインプット・ゲインと Apollo のマスター・アウトプットボリュームをリモートコントロールすることができます。

Unison, Apollo と Console アプリケーションの詳細については、UAD マニュアルを参照してください。

メーター

各チャンネルには、そのチャンネルから出てくるオーディオのレベルを表示するピークレベル・メーターがあります。このメーターは、パンとメインアウト・ボリュームの前にあります。

0 dBFS を超えたオーディオレベルは、メーター内の赤い LED で標示されますが、レベルは、メインアウトのボリュームとパンの影響も受けるので、必ずしもクリッピングを示すわけではないことにご注意ください。

プラグインには内部クリッピングは起こりませんが、0 dBFS でシグナルがクリップするかどうかは DAW に依存します。

モノ&ステレオ オペレーション

Marshall Legends プラグイン は、モノ/ステレオ、またはステレオ・モードでの動作が可能です。アンプは常にモノラルですが、キャビネットは、別々にパンすることができます。

プリセット

収録されているプリセットは、Tony Platt と Chris George によって作成され、このアンプで音作りを行なうための優れたスタート地点を提供します。プラグインのプリセットの難点は、ユーザーがプラグインに対し、ゲインなどのセットアップによってクリーンなプリセットであっても歪む場合があり、逆にクランチ・サウンドでもクリーンになる場合があります。

その場合、目的のサウンドを得るためにギターやギター・インターフェイスのボリューム、または、**Volume I**、**Volume II** コントロールのいずれかを調整してください。Marshall アンプを使用する一般的な方法は、約 12 時の位置に**ボリューム・ノブ**を設定し、ギターの**ボリューム・コントロール**でゲインを変更します。

キーコマンド

プラグイン内のすべてのナンバーとラベルはクリックすることができます。これは簡単に希望する値を入力、設定することができます。ラベルの上にマウスを乗せると指差し型のポインターに変更されます。

マウス

UP/DOWN マウスホイール

ノブやスイッチのパラメーター変更方法を選択

キーボード

ファインアジャスト t ⌘ (Mac) or Ctrl (Win),
パラメーターの値を微調整する場合に使用

パラメーターのリセット

Alt キーを押しながら、ノブやフェーダーをクリックするとデフォルト値にリセットされます。

いくつかのマイクを同時にソロ

Shift キーを押しながらソロ・ボタンをクリック

クレジット

Henrik Andersson Vogel - プロジェクト・マネージメント、
マニュアル&マーケティング Niklas Odelholm - プロダクト・デザイン、
キャビネット・モデリング、グラフィック・デザイン
Arvid Rosén - アンプモデリング Oscar Öberg - パワーアンプ・モデリング
Tony Platt - サウンド・デザイン Chris George - Marshall エキスパート&サウンド・デザイン
Paul Shyrinskykh - クオリティ・アシュアランス
Patrik Holm-ström - フレームワーク・プログラミング
Torsten Gatu フレームワーク・プログラミング Erik Hampusgård - コンフィグレーション &ビルディング
Mattias Danielsson - サポート

ロンドンの Kore Studios でマイクをセッティングする Tony Platt





Marshall Plexi Super Lead 1959

3

一般的に Plexi と呼ばれる 100 ワットの Marshall 1959 Super Lead は、最も名の知れたギターアンプであり、ロックの歴史の有力者たちがユーザーリストに名を連ねます。Softube は、Marshall のプロダクト・エキスパートやレコーディング・エンジニアで AC/DC の *Highway to Hell* や *Back in Black* を手がけた Tony Platt の協力を得て、Plexi を可能な限り最良の方法でキャプチャーできるように手をつくしました。このプラグインは、UAD-2/ Apollo ユーザーのみが使用可能です。

これは Plexi ではありませんが Plexi です。

Softube がモデリングした UAD-2/Apollo プラグインのためのこのアンプはただの Marshall Plexi ではありません。このプラグインの開発時、Softube は、Marshall のプロダクト・エキスパート Chris George の多大な協力を得て Marshall の

ミュージアム(非公開)からこのアンプを借り受けました。この素晴らしいアンプは、1967年に製造され、Marshall スタッフの手によって自然のままの形で保存され、Plexi がどういうサウンドであるべきか、Marshall 自身のリファレンスにもなっています。

パッチング

Plexi は、ハイとローの 2 系統のチャンネルを有しています。チャンネル I はブライトで、チャンネル II はダークなサウンドが得られます。多くのサウンドのバリエーションは、これらのチャンネルをパッチングし、組み合わせて使用することで得られますが、この特徴をプラグインでも忠実にモデリングされています。

正しい方法でサウンドを得る
しかし、ギターアンプのサウンドは、アンプ自体からは来ていません。



オン/オフ プレゼンス ミドル ボリューム I パッチスイッチ
ベース トレブル
ボリューム II

キャビネットやマイクの選択、マイクの配置は良いサウンドを得るために重要な部分です。したがって、Softube はキャビネットとマイク・シミュレーションを行なうために適任のエンジニア **Tony Platt** の専門知識を採用しました。Tony のサウンドは自らを物語ります。多くの素晴らしいレコードの中で **AC/DC** の *Highway to Hell* や *Back in Black* のエンジニアを担当しました Tony は、ラウドな Marshall アンプ・サウンドをレコーディングする方法を誰よりも熟知していると言っても過言ではありません。

キャビネットのチョイス

このプラグインの目標は、1967 年後半の Jim Marshall が意図した Plexi サウンドをキャプチャーすることです。典型的な 60 年代後半のサウンドをキャプチャーするために Tony と Chris は、Marshall 本社で多くのテストを重ね、Celestion G12H-30 を搭載したストレートの 1960BHW 4x12 インチスピーカー・キャビネットを使用することに決定しました。

これらは、現代的なセッティングと比較してより簡単にサチュレーションを起こすときに使用されるものと同様の比較的ワット数の低いスピーカーです。これにより多くのキャラクターを加える事ができます。このキャビネットのための特定のスピーカーは 60 年代からありませんでした。50 年を過ぎたスピーカーを使用した 100 ワットのギターアンプのサウンドを再現する場合、劣化と意図されたものに比べて明らかに異なるサウンドを与えます。しかし、使用しているスピーカーは、可能性と活気を得るためよく訓練されていました。

3つのマイクセッティング

Tony は、2 つの近接マイクと、1 つのルームマイクという 3 つのマイクとそれぞれに異なるマイクセットを作成することにしました。ユーザーは、使いやすいチャンネルストリップを表示するためにプラグインのサイドパネルを開くことができ、ここでは 3 つのマイクセットを選択肢、個々のマイクレベルやパンニングを調節することができます。セッティングは、マイクのタイプを示す FET、Valve、ダイナミックとネーミングされています。

アンプのパラメーター

フロントパネル・コントロールの機能は実際のアンプに正確に対応しています。そして、本当の使用方法の中の1つであるアンプの2つのチャンネルを接続することが可能です。

オン/オフ

オフにするとアンプをバイパスします。

プレゼンス

パワーアンプ・セクションのネガティブ・フィードバックを受け高域の量を減少させることによってトレブルをブーストし、プレゼンスの量を増加させます。

トレブル、ミドル、ベース

アンプの周波数成分を決定するトーン・コントロール

Volume I

明るいサウンドの Input I のボリュームをコントロール

Volume II

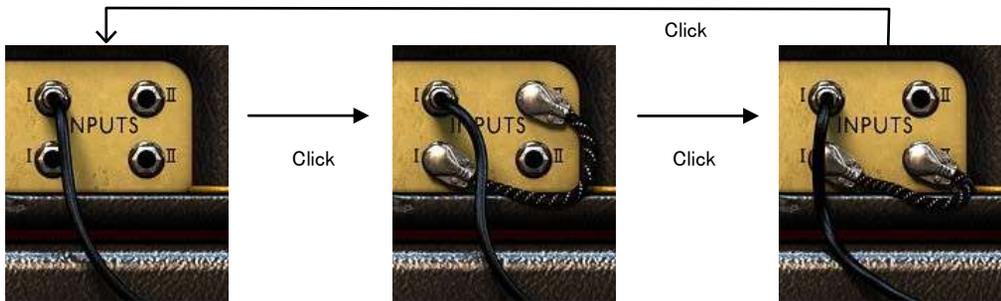
暗めのサウンドの Input II のボリュームをコントロール

パッチスイッチング

Input I と Input II の上下の入力の異なる組み合わせを提供します。4つの入力の1つをクリックしてギターからのメインの入力を選択します(黒いケーブル)。もう一度選択した入録をクリックすると使用可能なパッチの間をローテーションします(短く、黒/白のファブリックのパッチケーブル)。

パッチ・スイッチング

インプットをパッチングすることで、異なるアンプの入力のゲインやことなるカラーを得ることができます。Input II は、非常にダークなサウンドで、それを INPUT I と組み合わせることによって EQ のようにボリューム・ノブを使うことができます。



黒いケーブル(ギター)を Input I のハイ・インプットに適用。異なるインプットを選択するには、最初のパッチセッティング、または、他のインプットを選択するたえにインプットをクリックしてください。

黒いケーブル(ギター)を Input I のハイ・インプットに入力し、Input I のローと Input II のハイをパッチングします。これは標準的なパッチです、第2のパッチ・セッティングを選択するためには再度インプットをクリックしてください。

黒いケーブル(ギター)を Input I のハイ・インプットに入力し、Input I のローと Input II のローをパッチングします。パッチを削除するには、インプットをクリックしてください。

上部の Input I, Input I のボトムから Input II のトップに実験を兼ねて接続してください。

インプット・チャンネル

Input I (トップ)

明るく、ハイゲイン。1M Ω の入カインピーダンス

Input I (ボトム)

明るく、ローゲイン。130k Ω の入カインピーダンス

Input II (トップ)

暗く、ハイゲイン。1M Ω の入カインピーダンス

Input II (ボトム)

暗く、ローゲイン。130k Ω の入カインピーダンス

フロントパネルのパラメーター名をクリックすると、ノブを 12 時の位置にリセットします。

チャンネルストリップ パラメーター

チャンネルストリップは、緑のチャンネルストリップ・ステッカーや木の縁をクリックして開くことができます。これは同じ木の縁をクリックするか右にドラッグすることで再び閉じることができます。

イコライザー・メインアウト:ロー

12 時の設定でナチュラル/バイパス。時計回りに回すとシェルビング・フィルターとしてローエンドをブーストします。反時計回りに回すとローカット・フィルターになります。

イコライザー・メインアウト:ハイ

12 時の設定でナチュラル/バイパス。時計回りに回すとシェルビング・フィルターとしてトレブルをブーストします。反時計回りに回すとハイカット・フィルターになります。

メインアウト・ボリューム

プラグイン全体の出力ボリュームを調節します。

キャビネットマイク・セレクト

使用するマイクのセットを選択します。次のセクションの説明を参照してください。

ソロ

選択したマイクチャンネルにソロ・モードを設定し、他の 2 つを無効にします。一度に 1 つのチャンネルだけをソロにすることができます。

パン

ステレオ・パン内の望む位置にマイクチャンネルを配置します。

チャンネル・フェーダー

それぞれのマイク・チャンネルのボリュームを調節します。

キャビネット & マイク

16 Ω の 1960 BHW キャビネットはトーンに多種多様性を与えるよう慎重に選択され、素晴らしいマイクでレコーディングし、互いの組み合わせも慎重にしようされ素晴らしいサウンドを手に入れました。

イコライザー・メインアウト
ロー ハイ

メインアウト
ボリューム



← マイク
セレクション

← ソロ
← パン

← チャンネル
フェーダー

↑
クリックしてミキサー画面の表示/非表示

真空管マイク

やや丸みを帯びたトップと厚くソリッドなサウンド

Mic 1 Neumann U 67(単一指向性、-10 dB パッド・アクティブ)

Mic 2 Neumann U 67(単一指向性、-10 パッド・アクティブ)

Room mic AKG C 12

FET マイク

ルームマイクにより、多くのオープンなアンビエンス

Mic 1 Josephson E22

Mic 2 Neumann U 87 (単一指向性、-10dB パッド)

Room mic Coles 4038

ダイナミック・マイク

57 のようなソリッドな中低域から 609 のアグレッシブなトップのようなサウンドが得られる一般的なダイナミック・サウンド

Mic 1 Shure SM 57

Mic 2 Sennheiser E 609

Room mic Neumann U 87 (omni)

オフ(キャビネット、マイク無し)

Marshall Plexi アンプからの直接のサウンドが聴こえるようにキャビネットやマイク・エミュレーションをバイパスすることができます。これは通常快適なサウンドとはみなされません。

しかし、Softube Vintage Amp Room、Bass Amp Room、Metal Amp Room、Half Stack、Bass Amp Room 8x10 など他のキャビネットやマイクモデリングと組み合わせて使用することも可能です。すべてのプラグインは、アンプ・セクションをバイパスすることができるので、これらと Marshall Plexi ヘッドを組合せて新しいサウンドを作ることも推奨されます



